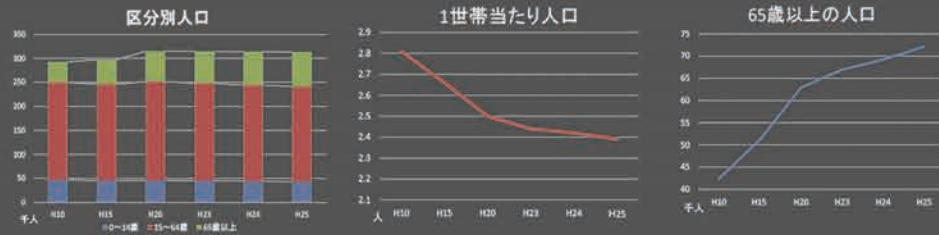


□背景

都市化や高齢化社会等が引き起こす墓地問題は先進国共通の問題である。我が国においても、都市部における死亡者の増加による、墓そのものの需要拡大とその供給不足の問題や、人口の流動化や少子高齢化など家族形態の多様化が引き起こす、継承者の減少による無縁墓の増加といった、墓の管理の問題が存在し、今後より顕著になっていくだろうと予想されている。このような流れから、近年、納骨堂や樹林墓地といった新しいタイプの墓地が公営・民営問わず徐々に増えつつある。

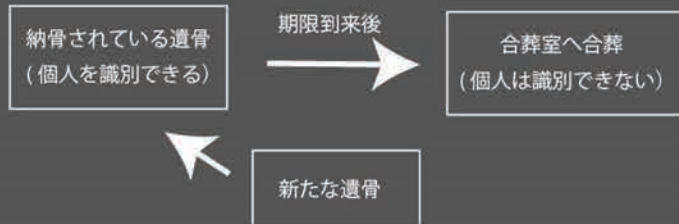
□四日市市において

以下のグラフは敷地として選定した四日市市のものである。他の市町村と同様に、高齢者の増加、核家族化が見られ、今後もこのような傾向が続くと思われる。墓地に関しては都市部近郊の公営墓地は空きがなく、郊外のものも埋まりつつある状況で、市民から新たに利便性の高い場所への新設が望まれている。



□提案内容

提案する内容としては、受付やトイレを備えた管理棟と、合葬室を併せ持った納骨堂を計画する。システムとしては33年を上限として納骨堂に遺骨を収容し、期限の到来とともに合葬室に合葬し、土に返すまでが一連の流れである。このシステムの採用によって、多くの遺骨を持続的に収容することが可能になり、墓地不足の解消と土地の合理的な利用が可能になる。また、市街地の近くに計画することによって、利便性を高めるとともに、公園的機能を併せ持つことで、都市施設のひとつとしての利用を期待している。



□形、仕掛けのコンセプト

無宗教を掲げながらも、人の死にかかわる施設であることから、神聖さと外界との境界性を持ったデザイン、光と影、生と死の混在が感じられるデザインを目指した。平面・立体は以下を重視して計画した。



また、外界との境界を表現するため、参拝までの流れの中に以下の動作を組み込んだ。



□納骨壇について

納骨室におかれる納骨壇は左のようなロッカータイプを想定している。個別型納骨室に設置される納骨壇は右のような大型で独立したものとなっており、地域の功労者などの利用を想定している。

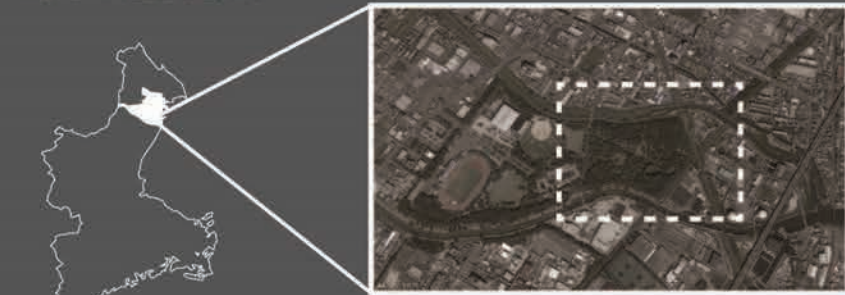


□材料について

構造材料としてはジオポリマーの採用を検討している。ジオポリマーはフライアッシュや高炉スラグ微粉末といったアルミナシリカ粉末とアルカリシリカ溶液の反応によって得られる硬化体である。耐酸性に優れることから、長寿命が望まれるこの計画には適していると思われる。



□敷地の所在と周辺状況



- ・三重県四日市市日永地区にある、中央緑地の東側部分を敷地として想定
- ・準工業地域内の都市計画緑地として指定されている
- ・川に囲まれており、住宅地に隣接していない
- ・周囲の建築物は小規模な工場、店舗、低層住宅で占められている
- ・敷地内の傾斜はほぼない

□敷地の現状

敷地の西側は陸上競技場や体育館などがあり、利用者が多いのに対し、現状の敷地（東側）は園路が存在するのみで、利用者が非常に少なく、閑散としている。その上、植栽・建築物（トイレ・倉庫）の管理が十分になされておらず、また、不法投棄された粗大ごみがあるまま放置されているなど、景観・雰囲気は非常に悪い。現時点としては都市計画緑地として指定されているため、建設は不可能であるが、行政による見直しによって建設が可能になったと仮定して計画する。



□敷地付近の交通状況



アクセス

- ・国道1号に近い
- ・近鉄四日市駅よりバスで7分
- ・近鉄新正駅から徒歩13分
- アクセスが非常によい

接道

- ・敷地西側と周囲する道路に接道

□敷地内の植栽

都市計画緑地ということだけあって非常にたくさんの種類の植物が見られる。樹木は4、5メートルのものが多く、密集している。景観を保ち、都市公園的機能をなるべく維持させるために、既存の植栽にはあまり手を加えず、計画を行っていくこととする。



□敷地の選定理由

- ・中心市街地から程近い位置に存在し、アクセスもよい
- ・住宅地に隣接しておらず、ある程度静かな環境である
- ・恵まれた立地にもかかわらず、有効利用されていない

以上の理由から、この土地を敷地として選定した。



配置図兼屋根伏図 1/1000



軸線を東西、海と陸に向かって設定し、納骨堂周辺のみを左右対称に整備し、それ以外は既存の園路・植栽を活用する。また、参拝者用に北西側に専用の駐車場も設ける。

なお、左の配置図兼屋根伏図は国土地理院基盤情報サービス (<http://www.gsi.go.jp>) のデータを引用、一部改変して作成している。

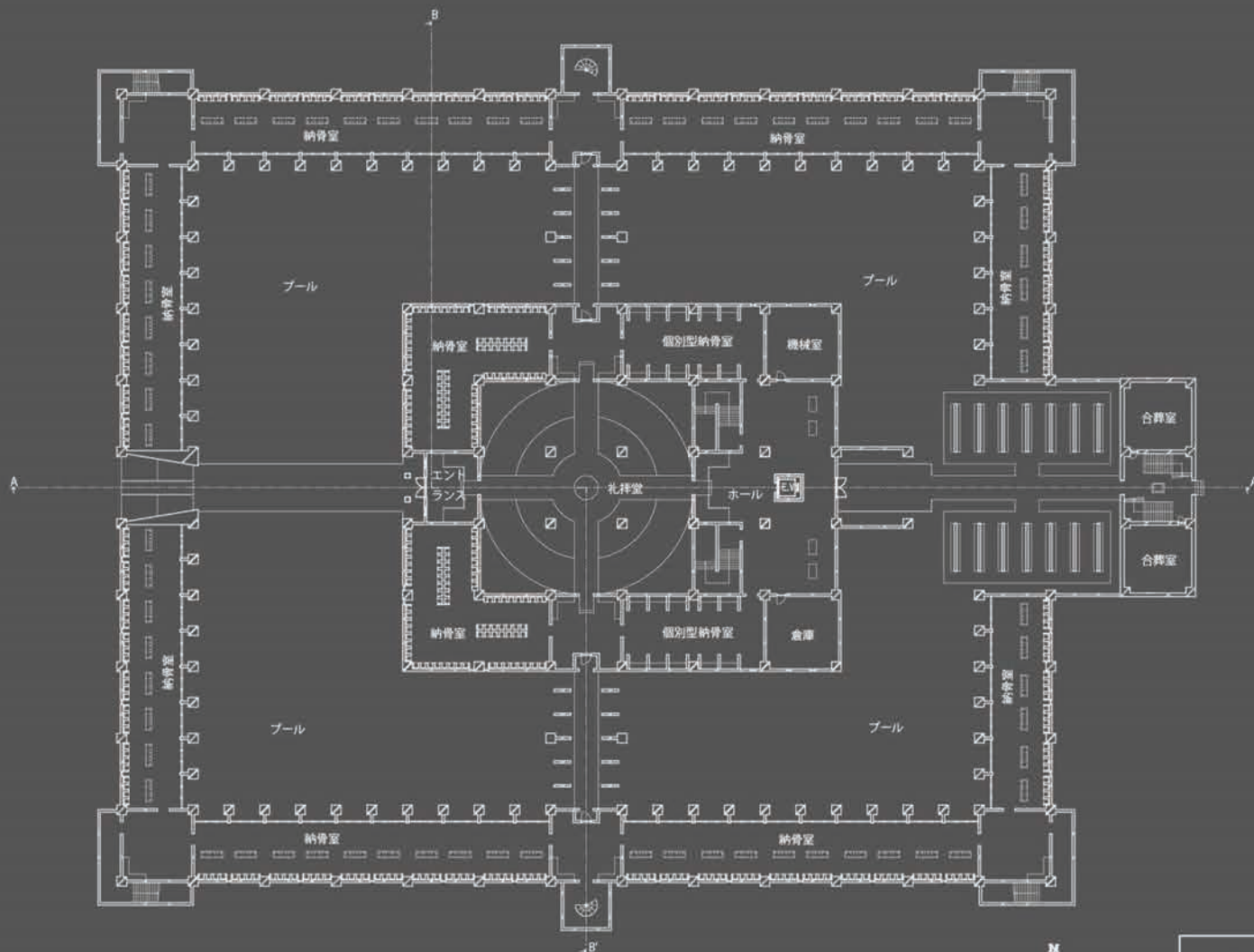


空中からみた軸方向のパース



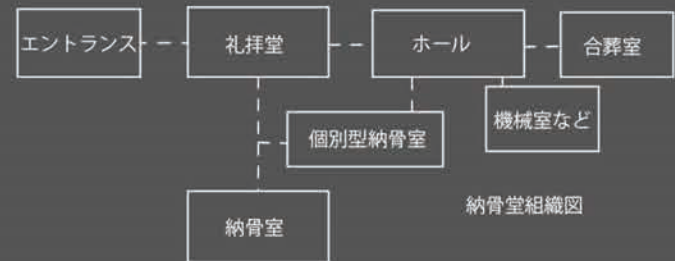
木々から見え隠れする納骨堂

面積表			
管理棟	m ²	納骨堂	m ²
事務室	42	納骨室(5056基)	1576
ロビー	144	個別型納骨室(60基)	432
トイレ	28	合葬室	72
倉庫	12	礼拝堂	324
待機室	16	倉庫	36
機械室	8	機械室	36
多目的室	60	法要室	72
収納	12	その他	1319
その他	46		
小計	368	小計	3867
延べ床面積		4235 m ²	
敷地面積		73900 m ²	

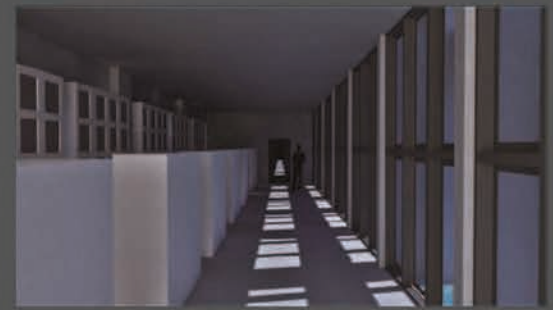


納骨堂 1階平面図 1/200

0 1.0m 5.0m 10.0m 20.0m



納骨堂組織図



納骨室内観

光と影の対比によって、物悲しい雰囲気を生み出す



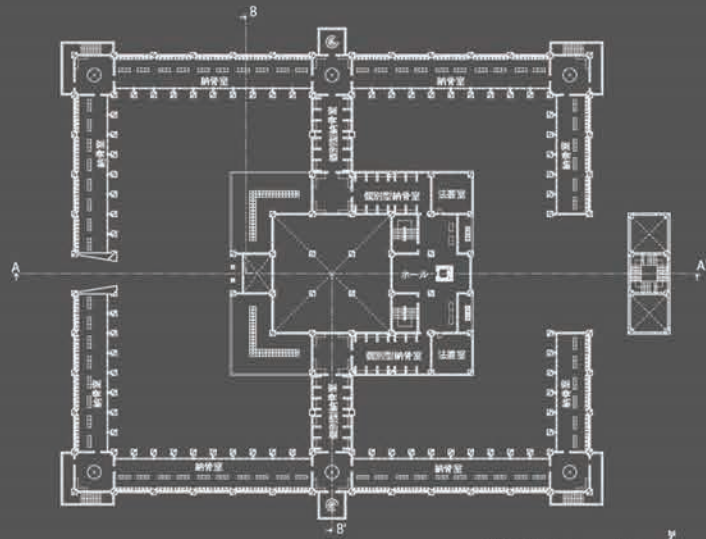
納骨室へのアプローチ

プールにかけられた橋を渡って向かう

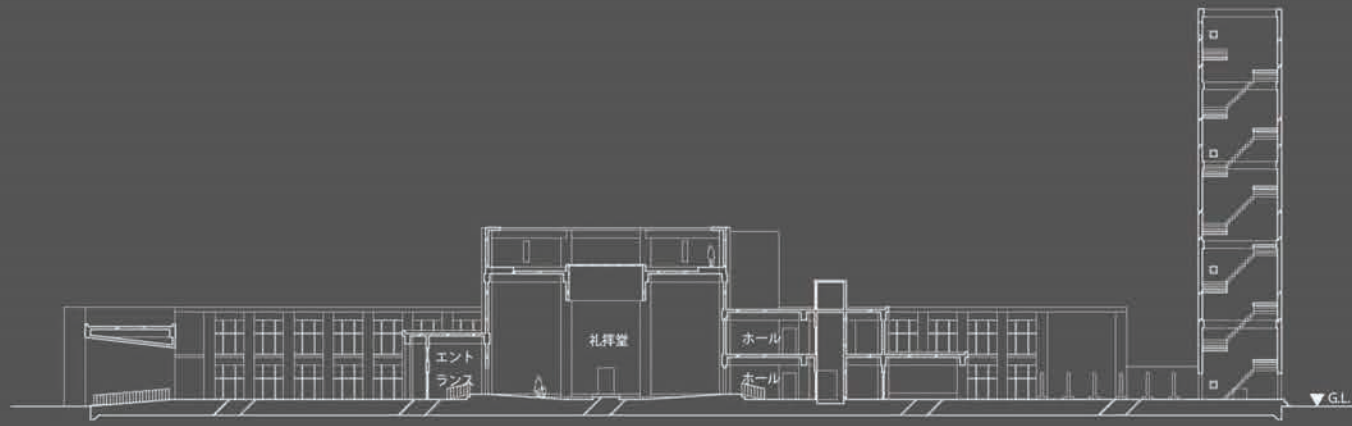


合葬室へのアプローチ

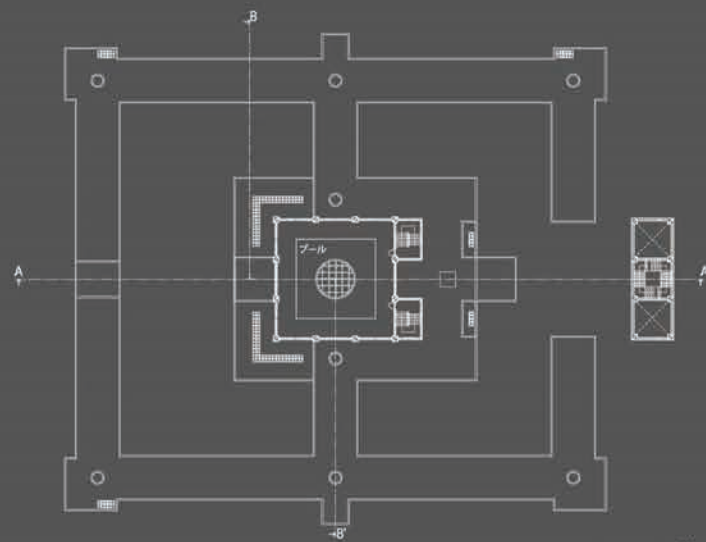
手前の石板は亡くなった人の名前が彫られる



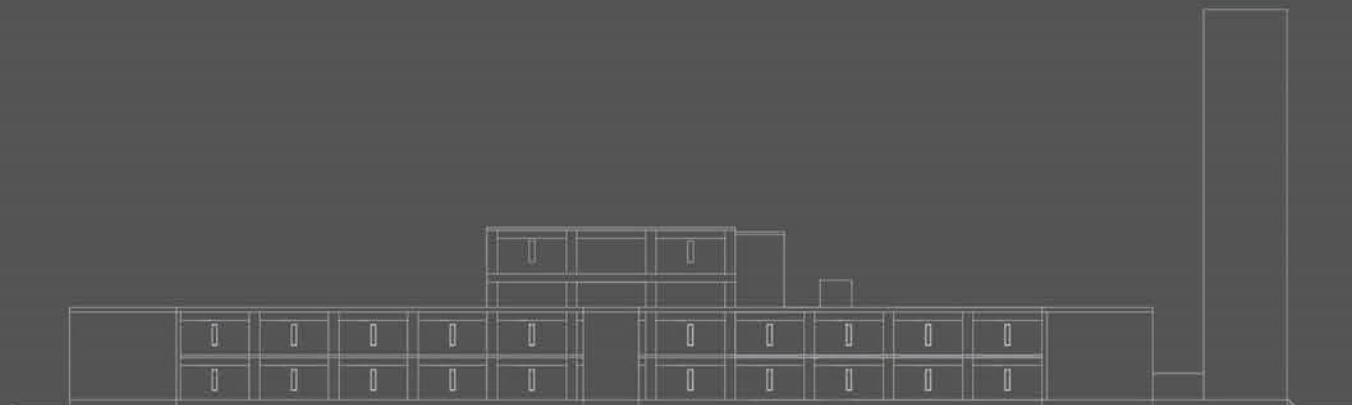
納骨堂 2階平面図 1/400



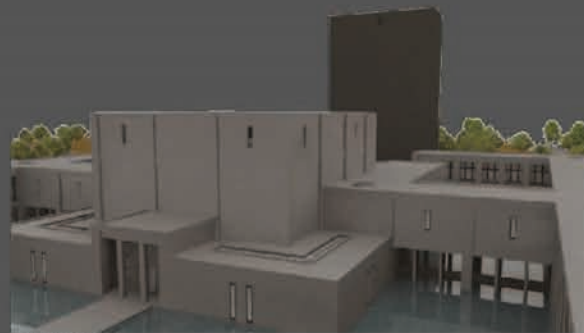
AA' 断面図 1/200



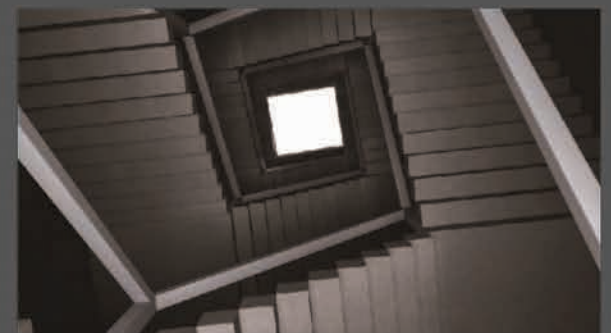
納骨堂 屋上階平面図 1/400



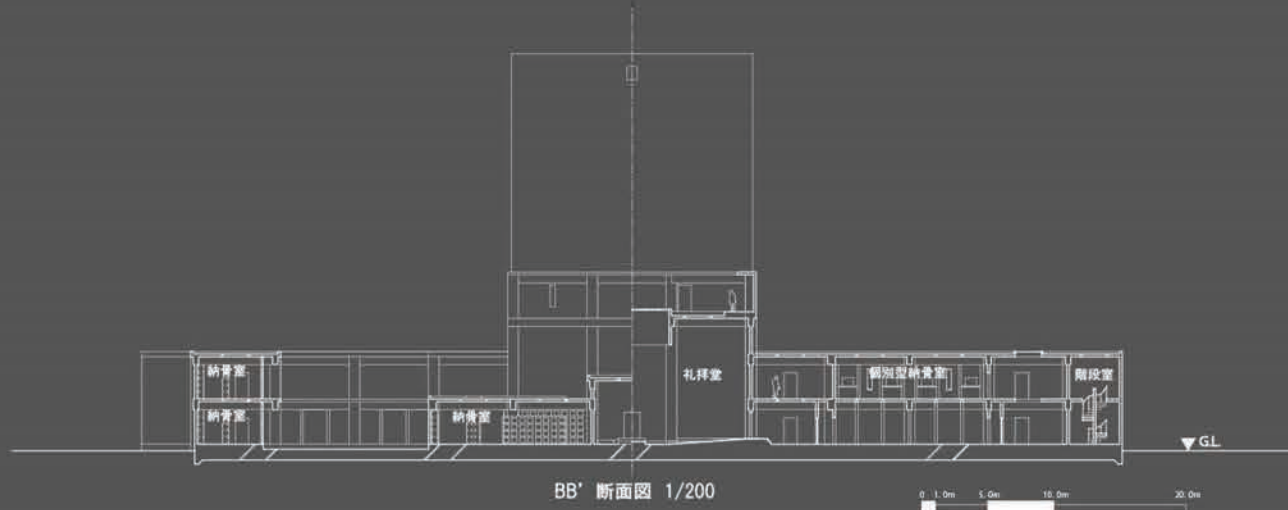
納骨堂 南側立面図 1/200



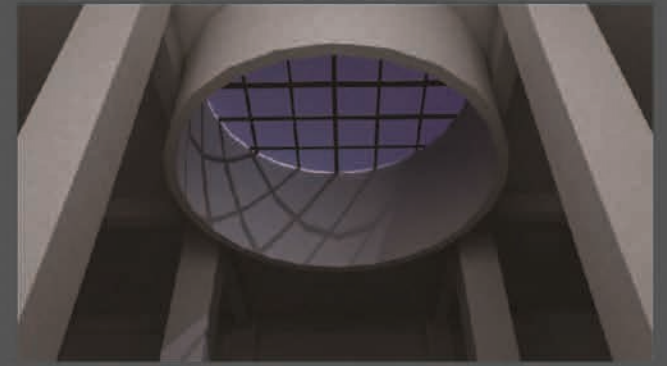
納骨堂外観



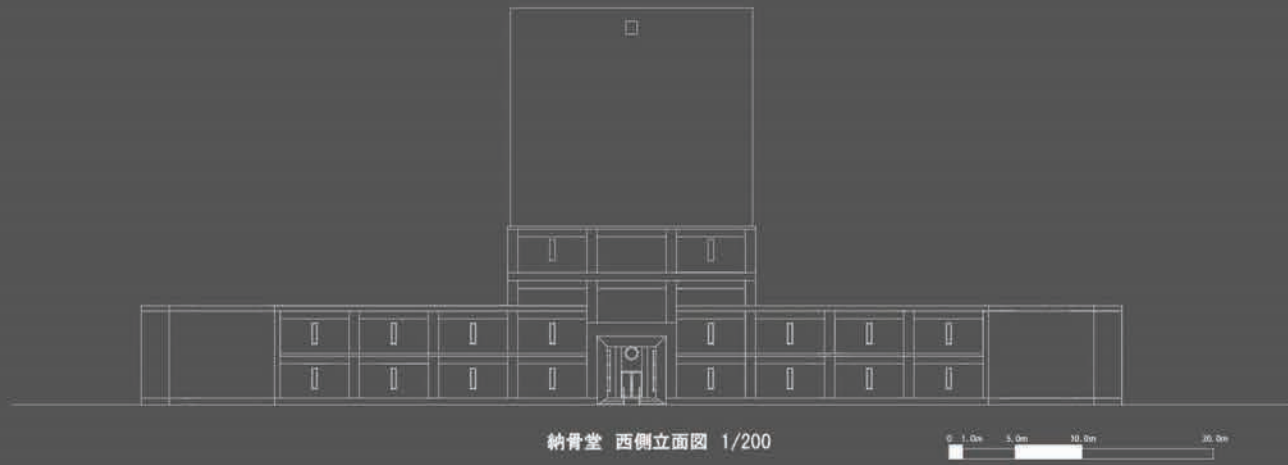
合葬室につながる階段
天国への階段をイメージしている



BB' 断面図 1/200



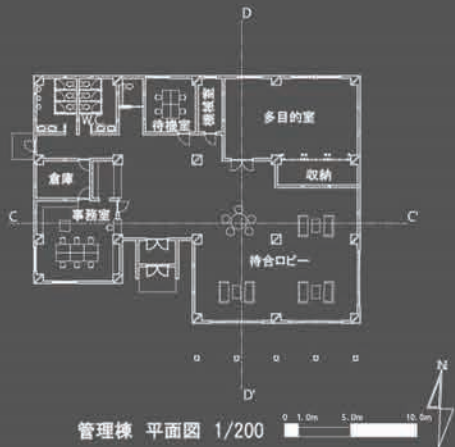
礼拝堂内部のトップライト
天からの光が礼拝堂を部分的に照らし出す



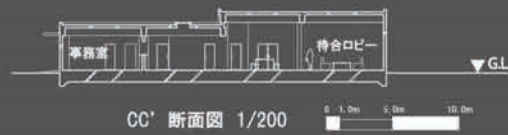
納骨堂 西側立面図 1/200



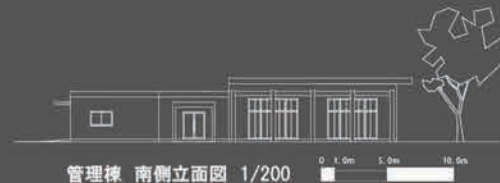
斜め上からのパース
屋上階は開放的な雰囲気、下階の礼拝堂とは対照的である



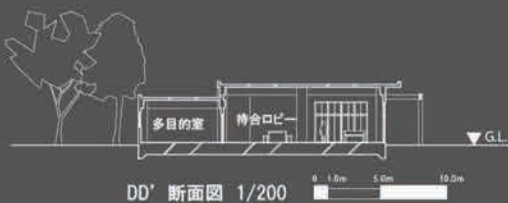
管理棟 平面図 1/200



CC' 断面図 1/200



管理棟 南側立面図 1/200



DD' 断面図 1/200



管理棟 東側立面図 1/200



管理棟外観



